

福島県内の

重要伝統的建造物群保存地区

十月八日の体育の日に、思い立って福島県の重伝建地区二カ所を見てきました。「南会津町前沢」と、「下郷町大内宿」です。

前沢は工学院大学の後藤先生も調査に参加しており、平成二十三年六月に重伝建選定されたばかりの茅葺の曲り屋集落です。

いっぽう大内宿は、昭和五十六年四月に選定されています。写真等でご覧になったこともあると思いますが、街道の両側に寄棟の茅葺屋根が整然と並んでいる様子は圧巻です。

以前、視察研修で長野県塩尻市の「奈良井」と「木曾平沢」を見ていただきましたが、ちょうど同じように、選定後観光地化した例と選定直後で本格的な整備はこれからという例と一緒に見たような感じでした。

福島県の二地区についてご紹介します。



大内宿の様子。3連休最後の快晴の日だったので、大勢の観光客が訪れていました。



前沢集落の遠景。



中門造の典型、曲り屋資料館。



曲り屋資料館のイロリ。



曲り屋資料館の内部。梁までが高く、天井は部分的にしかありません。

南会津町前沢（山村集落）

所在地

福島県南会津郡南会津町の

各一部

種別

山村集落

条例制定年月日

平成二二年一〇月一日

選定年月日

平成二三年六月二〇日

地区面積

約一三・三ヘクタール

保存物件数

建築物・工作物 二七件

南会津町は福島県南会津郡の最南に位置し、前沢は町南端の館岩地域に立地する山村集落で、館岩川の西岸にあります。

明治四十年の大火で家屋のほとんどが焼失しましたが、この大火後、数年のうちに復興されたのが現在の集落で、主屋十三棟の再建と二棟の新築は、南会津地方と新潟地方の大工十三人によりなされたと伝わります。そのため、主屋建築に年代差がなく、統一感のある集落になっています。保存地区内には、東西と南北の古道が交差しており、この辻を中心に家屋が建ち、その周囲を畑地が取り巻いています。

伝統的な主屋は茅葺で、中門造と呼ばれる曲り屋か、棟がまっすぐな直屋（すこや）です。中門造は、母屋（ザシキなどがある部分）を寄棟造、中門（入口やドマがある部分）を切妻造とするのが基本ですが、中門側を兜造風になっている家もあります。軒が高く壁には腰板が張られているのは、雪への対策です。壁面には貫が化粧として密に渡され、甲州の切妻造民家や附属屋の蚕室を思わせる美観を呈しています。

前沢伝統的建造物群保存地区は、明治末期から昭和前期に建てられた中門造と直屋の茅葺民家が混在する、会津地方南部の雪深い山間部の集落が状態よく保存されたものです。



コンパクトな集落内に多くの茅葺があります。



これも典型的な中門造の主屋です。

下郷町大内宿（宿場町）

所在地

福島県南会津郡下郷町

種別

宿場町

条例制定年月日

昭和五五年七月一二日

選定年月日

昭和五六年四月一八日

地区面積

約一一・三ヘクタール

保存物件数

建築物 四九件
工作物 九件

環境物件 二件

大内宿の形成は、徳川幕府が全国の完全支配の一環として、五街道をはじめ脇街道の宿駅制度が進められるようになってからと考えられますが、本格的な整備は、寛永二十年（一六四三）に保科正之が会津藩の領主として入ってきてからです。

下野街道（会津西街道）は会津と江戸を結ぶ主要幹線として、重点的に整備した「本道五筋」の一つで、会津藩主の十八回に及ぶ江戸参勤や、年間十万俵の江戸廻米の輸送などに使われました。



大内宿の整然と屋根が並ぶ姿は圧巻です。



町並みの様子。ソバ屋が多いです。



町並みの様子。路面はすべて砂利舗装です。



3連休最後の日は、大変な混雑でした。



街道の両側を流れる石組みの水路。



町並みの様子。



商売の様子。量・種類とも豊富です。

大内宿は、幕末の戊辰戦争にも巻き込まれることなく、明治十七年の会津三方道路の開設により幹線道路からはずれ、ひなびた閑村として残されました。保存のきっかけは昭和四十二年の会津茅葺職人調査で、四十四年以降はマスコミなどにも取り上げられ、保存の機運も高まりましたが、五十六年の選定までは苦労の連続だったといえます。

大内宿が他の伝建地区と異なるのは、観光客の多さです。今では珍しい砂利舗装の道路の両側に整然と並んだ茅葺民家では、ほぼすべて何かしらの商売を営んでおり、大量の観光客のニーズを満たしています。

ソバ屋では、箸の代わりにネギで食べる「名物ネギ蕎麦」をどこでも提供し、売店では、どこでも同じような商品がところせましと並んでおり、その様子は、ある種のテーマパークを思わせます。行き過ぎた商売に対しては非難の声もあり、特に伝建地区内いっぱいに色とりどりの土産物があふれていたり、軒先を越えて商品棚を設ける風景は、伝建地区らしからぬためたびたび行政的な指導の対象となっているようです。しかしながら、すべての家に後継者がおり空き家がないということで、観光が主産業になっているというのは、特筆すべきことかもしれません。